

◎県手をつなぐ育成会広報 IT 部会は、機関紙「山口手をつなぐ」だけでは不足する障害関連の情報を補完するために、新聞各社のご了解を戴き、2011年4月号より、発行月までに報道された新聞記事を収集し、「新聞切り抜き帳」として編集し、2~3ヵ月に1回、会員向け必見の情報をお届けしています。

◎切り抜き帳の閲覧は**ホームページ**で… [山口県手をつなぐ育成会(検索)一般財団法人 山口県手をつなぐ育成会項目お知らせ(クリック)新着情報(から選ぶ)]

県内話題・後見制度相談(1)、 教育・高校授業、実習共生へ(4)、 政策制度(5~8)、  
障害年金改正検討 (6,7)、 成年後見民法改正へ(8)、 就労・社会環境(9~14)  
グループホーム新たな仕組み(10)、 虐待・差別(14~19)、

当欄は各ページの内容概要を標記しました ※()内数字は当該項目の頁

1頁	成年後見制度で無料電話相談会 9月16日まで	山口 4.8.12
1頁	知的障害男子1万人の喜び語る 日鉄ステンレス陸上競技部の高山さん	山口 4.7.30
2頁	支援学校に運動部浸透 パラリンピックで人気	山口 4.8.29
2頁	「通級指導」利用最多16万4千人 障害のある小中高生、診断増などで	山口 4.7.12
3頁	パラリンピック1年レガシー「障害者と共に」雇用など実社会に課題	読売 4.8.25
4頁	教育ルネサンス障害ある生徒も同級生 授業・実習一緒に	読売 4.7.5
5頁	障害者政策、改善勧告へ 教育、精神医療遅れに懸念	山口 4.8.24
5頁	障害者就労 適正事前評価 24年度にも導入年間3万人対象見込み	読売 4.8.19
6頁	「厚生」の要件緩和へ 障害年金、国が改正検討(7頁に続く)	山口 4.8.15
7頁	障害年金 運が左右 初診日で金額に大きな差(6頁の続き)	山口 4.8.15
8頁	成年後見、民法改正へ 法務省検討 必要な時だけ利用、交代も	山口 4.8.13
9頁	障害持つ「過齡児」全国283人 児童施設で18歳以上に	読売 4.8.22
10頁	安心の設計障害者の一人暮らし実現へ支援策グループホーム新たな仕組み	読売 4.7.19
11頁	暮らしの広場 吃音の若者 接客で自信注文で時間のかかるカフェ	山口 4.7.12
12頁	西日本豪雨4年障害者避難「課題」87% 移動・避難生活に不安	山口 4.7.3
13頁	西日本豪雨4年娘抱きしめ、自宅で溺死 障害ある人に「誰かが手を」	山口 4.7.3
14頁	西日本豪雨4年「周囲に迷惑」と車避難(12頁と13頁の続き)	山口 4.7.3
14頁	福岡市「さるく」NPO理事長ら起訴 障害児施設監禁	読売 4.8.11
15頁	中学生縛り連行 NPO理事長ら逮捕 容疑で福岡県警	読売 4.7.21
16頁	中学生監禁「療育目的」逮捕の理事長 子供押さえつけも	読売 4.7.22
16頁	別の男児巡り職員虐待認定 (14頁~17頁、同一事件)	読売 4.7.23
17頁	専門家「受け入れ拡充を」日常的虐待か、頼る親も	山口 4.7.28
17頁	「意思持ち懸命に生きた」相模原殺傷6年、19人悼む	山口 4.7.27
18頁	「私たちは精いっぱい生きる」入所女性、亡き仲間へ折り鶴	山口 4.7.26
19頁	差別ない社会願って 事件6年 美帆さん母伝え続ける	読売 4.7.27

### 地元育成会の所在情報については、市役所・町役場の福祉担当窓口でお確かめ下さい

※育成会は知的障害児者の家族会です。全国組織(約20万人)を構成しており、国の福祉法制立法や改正時の機会には、参画して意見具申等を行っています。

# 知的障害男子1万円Vの喜び語る

## 周南・日本製鉄日鉄ステンレス陸上競技部の高山さん

日本1D陸上競技選手権大会で初優勝し、藤井律子市長（左）に喜びを語った高山慎大さん19日、周南市役所



周南市の日本製鉄日鉄ステンレス陸上競技部に所属する高山慎大さん(29)が、知的障害者が出場する日本1D陸上競技選手権大会(高山さんが29日、山口県彦監齋(29)と周南市役所を訪問し、藤井律子市長に快挙を報告した。藤井市長は「大会は6月4、5日に金沢市で開催された。高山さん(29)が、知的障害者が出場する日本1D陸上競技選手権大会から独走状態となつてそのようになり、光を放つ人になつてくれた。高山さんは「1位が取れなかった。2回目の出場を待たせたい。フルタイムで知的障害者世界記録の2時間20分を切りたい」と次出口出身。山口総合支援学校入学後に陸上を始め、出口製鐵所で清掃作業に当

(毛利祥子)

成年後見制度で  
無料電話相談会  
来月16日

成年後見センター・リ  
ガルサポート山口支部(丸  
本進実支部長)が9月1  
6日、高齢者・障害者のた  
めの成年後見電話相談会を  
開催する。司法費士が無料  
で相談に乗る。事前予約制。  
本人だけでなく親族や養  
護者からの、「ひとりの響  
しの今後が不安だ」「遺産  
分割協議をしたいが、相続  
人の人が認知症でできな  
い」「知的障害のある子ど  
もの将来が心配」「母の年  
金が勝手に使われているよ  
うだがどうしたらよいか」  
といった相談に電話で対応  
する。

予約は開催期間中の平日  
の午前9時～正午、午後1  
時～同5時に電話で受け付  
ける。申し込みはリガル  
サポート山口相談予約係  
(電話083・924・5  
20)へ。

成年後見制度は、認知症  
や知的障害、精神障害など  
にその判断能力が十分な  
人たちが、財産侵害を受け  
たり、人間としての尊厳が  
損なわれたりすることなど  
いよう、法律面や生活面で  
保護・支援する仕組み。リ  
ガルサポートは、司法書  
士で構成された全国組織の  
公益社団法人。

# 支援学校に運動部浸透

## パラリンピックで人気

特別支援学校で運動部が浸透しつつある。全国特別支援学校長会（東京）の調査によると、東京パラリンピックで注目されたポッチャやゴールボールなどが人気を集める。eスポーツなど重度障害の子が取り組みやすい種目も見られ、校長会の市川裕二会長は「本格的な競技からリハビリまで、パラスポーツが持つ幅の広さが部活動にも表れている」と分析した。

今年2～5月、全国の特別支援学校約1100校に調査し、608校が答えた。小学部に運動部・スポーツをするクラブ活動があるのは48校。中学部には284校、高等部は574校にあった。

種目別に見るとポッチャが最も多い。フロアバレーボール、ゴールボールなどが続いた。前年に比べて運動部・スポーツのクラブ活動の数が増えたとの答えも目立った。増えた部活動に

る「地域スポーツクラブと連携を取っている」などが挙げられた。競技団体やクラブチームを紹介したり、ランニングなど卒業後も手軽にできる種目を体育の授業で実施したりする工夫も見られた。

市川会長は「練習環境や指導者不足など課題は多い。地域と協力し、障害がある子どもがスポーツに触れる機会を増やしたい」と話した。

## 20年度

## 障害のある小中高生、診断増などで

障害のある国公立の小中高生で、通級指導に在籍しながら必要に応じて別室などで授業を受ける「通級指導」を利用したのは2020年度に16万4693人となり過去最多だったことが11日、文部科学省の調査で分かった。

障害のある小中高生で、通級指導に在籍しながら必要に応じて別室などで授業を受ける「通級指導」を利用したのは2020年度に16万4693人となり過去最多だったことが11日、文部科学省の調査で分かった。障害別の内訳は、言語障害4万3632人、注意欠陥多動性障害（ADHD）3万3825人、自閉症3万2346人、学習障害（LD）3万612人など。通っている学校の教室を使う「自校通級」が10万6022人で、特別支援学校を含む他の学校を使う「他校通級」は4万6287人、他校の教室が中心のため、障害に応じた「通級」は1万2384人だった。

文科省は「発達障害と診断される子どもが増えていることや、通級指導の存在が知られるようになったことが背景にある」と分析。少人数指導が中心のため、障害に応じたきめ細かな配慮が可能だとした。ただ、他校通級の場合は子どもや送迎する保護者の負担が重いことが課題とされる。文科省は、なるべく自校で指導を受けられるよう、教員数の確保や巡回指導の拡大に向けて検討を進める。文科省によると、19年度までは5月1日時点の利用者数を公表していたが、年度ごとの実績をより正確に把握するため3月末時点での集計に変更した。そのため19年度の値より大幅に伸びて約3万人増となった。

## 「通級指導」利用 最多16万4千人

# パラリンピック1年

2020年東京パラリンピック開幕から、24日で1年となった。大会開催は、私たちにとってレガシー（遺産）をもたらしたと言えるのか。共生社会に向けて、実社会の変化を育むための課題は何か。



編集委員 結城和香子

# レガシー「障害者と共に」

## 雇用など実社会に課題

### 気づき

「街が、全体的に優しくなりました」。選手村の副村長や、聖火リレーのアンバサダーを務めたパラリンピアン田口亜希さん(51)の実感だ。車いすで移動しても前ほどじろじろ見られなくなり、自然体で声をかけてくれる人が増えた。子どもが車いすの車輪を触りに来ても、制止するかわりに親が「この子(車いすが)好きなんです」と笑う。



無観客で開催した東京パラリンピック。それでも選手たちの活躍は社会に強い印象を残した(2021年8月24日、国立競技場で)

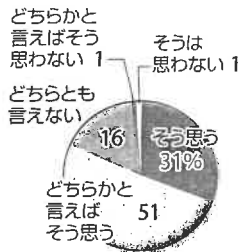
東京パラリンピックを見たか



障害のある人に対する意識変化はあったか



行動の変化に結びつくか



※藤田紀昭教授提供

日本福祉大学の藤田紀昭教授(69)が昨年12月に実施した調査も、それを裏付ける。パラリンピックの報道に触れた7割近い人のうち、肯定的に意識が変わったと感じた人は46%。その中でそれが何らか

の行動に結びつくと思う人は82%いた。「パラリンピックで得た気づきが、意識や行動変容に結びつくと感じる人が、社会全体から見るとそれぞれ3分の1、4分の1程度いることになる。かなりの変化

### パラスポーツ

開催決定からの年月は、選手強化や企業支援など、パラスポーツ界に目に見える変化をもたらした。ただ次世代が生まれるはずのピフミッドのそ野では、学校体育の見学や、練習環境の厳しさなど課題は依然多い。



東京大会で金メダルを獲得した杉村英志選手(左)の力投。スキムラングという流行語まで

支援や理解の土壌ともなる人々の関心は、大会から1年たった今どうなっているのか。20日都内で開かれた「TOKYOパラスポーツパークin駒沢」では、車いすラグビーやボッチャの体験会に、小学生から高齢者まで延べ数百人が訪れた。車いすラグビー東京大会日本代表の羽賀理之選手(37)は、パリ大会を目指す日々の中でも「人々に知ってもらうため体験会にはなるべく来る」と語る。電動車

東京パラリンピックとスポーツに関わる変化

2011年	スポーツ基本法制定
13年	2020年東京五輪・パラリンピック開催決定
14年	障害者スポーツの管轄を厚生労働省から文部科学省へ
15年	スポーツ庁発足
16年	都内の全公立学校でオリパラ教育開始
17年	I P C公認教材 I'mPOS SIBLE公表 共生社会ホストタウン制度を創設
18年	日本財団パラアリーナ開設
19年	ナショナルトレーニングセンターイースト 供用開始
21年	東京パラリンピック開催

### 共生

難しいのは、そうした意識を、いまだ顕著な改善が見られていない障害者雇用や社会参画の推進にどうつなげるかだ。

国際パラリンピック委員会(IPIC)は東京大会で、「We The 15」と題した世界キ

いすで葛飾区から来た石津昭義さん(47)は、「戦略の面白さにはまり」ボッチャをやる人が格段に増えたという。ヤマハ発動機スポーツ振興財団が、静岡県内の小学校を対象に行ったボッチャの体験授業の調査がある。体験会の後、「障害のある人と仲良くできる？」などの問いに「はい」と答えた児童数の比率は10%以上有意に上がった。1年後の調査でも持続していた。自分でもボッチャを行う機会があった児童ほど、前向きな回答だったという。

「東京大会開催決定からの8年間で、都内地下鉄のエレベーター設置は67%から96%になった。ハード面は一定水準に達している。課題はハ

ト、ソフト面です」。障害という違いが価値を生むとの信条からミライノを創業、障害者手帳アプリ「ミライノID」の普及等で注目を集める垣内俊哉社長(33)は言う。「開催で障害への認知度は格段に変わった。大会がもたらした機運に乗り、情報開示等を選択肢を増やし、障害者の消費と労働への意欲を高めるべきです。企業側にも、多様性の包摂が未来への力ぎだという理解が生まれ、強まっている。少子高齢化が進む日本はとうとう「有事」です。労働力不足への対策や、15%もの人々を対象にしたビジネスチャンスを無視する余裕は企業にはない」



# 障害ある生徒も同級生

障害の有無や性別、年齢や国籍といった違いを認め合い、共に学ぶ機会を設ける試みが教育現場で広がっている。それぞれが個性を発揮し、誰もが取り残されない教育現場の実現に向けた取り組みを紹介する。

## ■共に学ぶ

「無理だ。怖い」  
奈良市の奈良県立山辺高校（生徒数175人）。1年3組の三輪大喜君（16）は、ヤギを飼育舎から出し、草を食べさせる初めての実習授業に臨んだ。最初は少し離れて見守ったが、農場長の中井政治教諭（59）から「リードをしっかり引く張るとついて来ます」と説明



## 授業・実習 一緒に

### 高校で取り組み広がる

を受けると、食事中の大きな雄ヤギのリードを握り、恐る恐る腹をなでた。山辺高校では今年度から、普通科のほか、農業を学ぶ「生物科学探究科」と、知的障害のある生徒が学ぶ「自立支援農業科」に学科が再編された。三輪君は今春、自立支援農業科に入学した14人の1人。同科と生物科学探究科の20人は同じ1年3組の生徒だ。

中井教諭は「誰もが農業は初めての体験。今後は、互いに分からないところを教え合うグループ学習に発展させたい」と話す。

## ■農福連携

奈良県教育委員会によると、知的障害のある生徒が農業を学べる専門の学科を公立高校に設けたのは、全国初という。障害の有無を問わずに学ぶ「インクルーシブ教育」を進め、障害者が農業に携わる「農福連携」の担い手育成も目指す。

ヤギに草を食べさせる1年3組の生徒たち（6月8日、奈良県立山辺高校）

## ■インクルーシブ教育

障害の有無や性別、国籍、民族などにかかわらず、全ての子どもが地域社会から排除されずに共に学ぶことが出来る教育を目指す。日本が2014年に批准した国連の障害者権利条約にもうたわれている。

1年3組では、英語や数学など一部は別々に学ぶが、多くの授業や行事は全員で参加する。生物科学探究科の山岡仁君（16）は「自分は数学が苦手。苦手なこととはそれぞれある。科の違いは気にならない」と話す。

農福連携のため、国は特別支援学校での農業実習を進めているが、農業者と障害者のコミュニケーションが課題になることが多いという。県教委の担当者は「生徒が相互理解を深めることで、障害の特性に理解のある農業者の育成にもつながる」と期待する。

## ■広がる選択肢

障害のある生徒や保護者にとっても、高校で他の専攻の生徒と共に学ぶメリットは大きい。三輪君は地元中学では、特別支援学級で個別指導を受けていた。特別支援学校への進学も検討したが、母親の純代さん（45）は「高卒資格が得られると、進学や就職で選択肢が広がる。社会に出れば、自分でトラブルも解決しなければならぬ。自立できる力を身につけてほしい」と願う。

同じ自立支援農業科の長浜愛姫さん（16）は、「カフェの経営」が将来の夢だ。昨秋のオープンスクールでヤギの飼育やライフル射撃部を見学し、山辺高校への進学を決めた。今は射撃部で先輩らと練習に励んでいる。母親の真由美さん（47）は「最初は不安だったが、家では学校の出来事を楽しそうに話してくれる。友達を増やして夢をかなえてほしい」と期待を込める。自立支援農業科の担任を務める松本貴子教諭（51）は「早口だと聞き取れなかったり、聞くことと書くことを同時にするのが苦手な生徒もいるが、周囲に合わせようとせず、個別に対応すれば解決できる」と話す。安原直彦教頭（56）は「高校卒業というゴールは同じだが、道筋は様々あつていい。教員も学びながら指導していきたい」と語った。

## 進学意欲高まる インクルーシブ教育

現在、小中学校の8割以上に特別支援学級があり、2021年度の在籍者は約33万人に上る。発達障害などへの理解が進んだことから、近年急増している。

中学卒業後は福祉施設や特別支援学校高等部に進む生徒が多い。高校は入試があり、学ぶ内容も高度になるためだ。そんな中、神奈川県では高校でのインクルーシブ教育に力を入れる。

県教委は17年度、県立3高校で知的障害がある生徒の受け入れを始めた。20年春に卒業した1期生29人の進路は、4年制大学1人、専門学校3人、職業訓練校8人と、約4割が進学した。就職などが多い特別支援学校に比べ、進学が目立つという。20年度からは実践推進校を14校に拡大した。県教委は「他の生徒と一緒に学ぶことで進学意欲が向上しやすい」とみている。

インクルーシブ教育に詳しい津田塾大の柴田邦臣教授（48）は「高校で障害者と健常者が相互に理解を深める意義は大きい。共に学ぶだけでなく、個々の特性にあった学び方の選択肢をどれだけ用意できるかが課題だ」と指摘した。

# 障害者就労適性事前評価

## 24年度にも導入 年間3万人対象見込み

厚生労働省は障害者総合支援法を改正し、就労を希望する障害者の得意なことなどを事前評価する仕組み（アセスメント）を創設する方針を固めた。本人に適した仕事や、就労の際に必要な配慮が事前評価で明確になれば、企業も障害者を採用しやすくなり、仕事内容と能力のミスマッチを防ぐ効果が期待できる。早ければ2024年度にも導入することを目指す。

新しい仕組みは「就労選

択支援（仮称）」と呼ばれ、障害者の企業での就労を支援する事業所などが、国の指定を受けて実施する方式を検討している。具体的には、就労支援の障害福祉サービスの利用を希望する人に、パソコン入力や事務、縫製などの作業を実際に行ってもらう。期間は2週間から2か月程度を想定している。担当する職員は事前

現状では企業での就職が難しい障害者向けの福祉サ

ービスを利用し始める人を中心に、年間約3万人が対象になると見込んでいる。事前評価の結果は、市区町村や福祉の事業所、ハローワークの職員らが参加する会議で情報共有し、企業などでの就労拡大につなげる。

### 障害者政策、改善勧告へ

#### 教育、精神医療遅れに懸念

【ジュネーブ共同】日本が締結している障害者権利条約を巡り、国連がスイス・ジュネーブで23日、日本政府に対する2日間の審査を終えた。障害児を他の子どもと分ける特別支援教育

日本への審査は2014

年の同条約締結後、初めてで、障害者の間では政策の見直しに期待が高まる。ただ勧告に拘束力はなく、政府がどこまで尊重するか対応が問われそうだ。

審査は、18人から成る国連の障害者権利委員会と政府の代表団が対面で質疑応答して実施。

同条約は教育に関し「他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会で障害者を包容した初等・中等教育を受けられるこ

と」と定めており、権利委員の委員からは、特別支援学校・学級に通う子どもが増えている日本の状況を疑問視する声も相次いだ。

政府側は「特別支援と普通の学校どちらにするかは本人と保護者の意思を最大限、尊重している。中学以上では特別支援を選ばず保護者が多い」と説明した。

精神科の強制入院は他の先進国に比べ緩い条件で広く行われており、「廃止した。

16年に起きた相模原市の障害者施設殺傷事件についても、複数の委員が言及。事件後もなお施設入所者が多く、地域生活への移行が進まない理由をただした。

# 「厚生」の要件緩和へ

## 障害年金、国が改正検討

一定の障害がある人が受け取れる国の障害年金制度で、支給要件が厳しいために少ない金額しか受け取れない人がいることから、厚生労働省は14日までに、金額が多い「障害厚生年金」を今よりも受け取りやすくする方向で検討を始めた。2025年に国会提出を目指す年金制度の改正法案に盛り込みたい考えで、今後具体策を審議会などで議論する。実現すれば、障害年金の制度上、約40年ぶりの大きな変更となる。

(13面に関係記事)

障害年金には「障害基礎年金」と「障害厚生年金」の2種類がある。障害の原因となった病気やけがで初めて医療機関にかかった「初診日」が重要で、初診日が国民年金の加入中だった場合は「基礎」、会社員や公務員で厚生年金の加入中だった

場合は「基礎」と「厚生」が支給される。だが、例えば会社員時代に病気になるっても、深刻に考えず医療機関にかかったのが退職後だったり、会社を辞めて転職活動中に事故に遭ったりした場合、それまでどんなに長く厚生年金に加入していても、支給さ

れるのは障害基礎年金だけになる。支給額は最重度の1級の場合、基礎のみだと月約8万1千円。厚生を支給額は加入期間や給与によって異なるものの、基礎と合わせ月十数万円受け取れることが多い。また、障害が最も

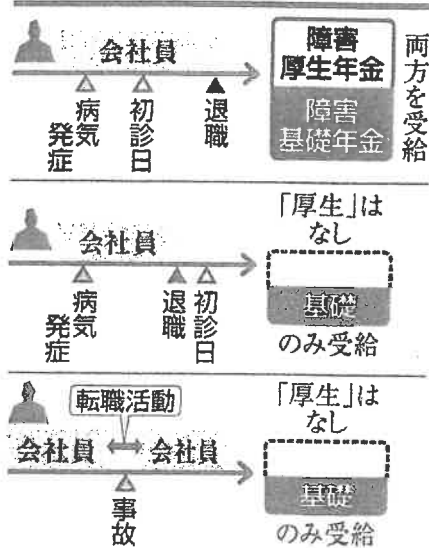
軽い3級では基礎は支給されないが、厚生は受け取れるというメリットもある。初診日のわずかな違いで年金の有無や支給額が大きく左右される構造的な問題

障害年金 病気やけがで一定の障害のある人が受け取れる公的年金。障害基礎年金と障害厚生年金の2種類がある。「基礎」は2階建ての年金制度の1階部分に当たり、「厚生」は報酬比例で上乗せされる形。受け取るには障害の程度や保

険料納付期間などの要件を満たす必要がある。障害の重い順に1〜3級に分かれ、支給額は基礎年金の1級で月約8万1千円、2級で約6万5千円。基礎年金は3級では支給されない。受給者は2021年3月末時点で約226万人。

### 障害年金の仕組み 【等級が1,2級の場合】

※イメージ



# 初診日で金額に大きな差

## 障害年金 運が左右

障害を負ったときの「初診日」のわずかな違いで受給額に大きな差が出ることもある現在の障害年金制度。運に左右されてしまう仕組みで、当事者からは「そんなことになっているとは知らなかった。早く変えてほしい」と切実な声が上がっている。

### 50万円超「損」

「精神科にかかるのは抵抗があったし、当時はしんどくて、とにかく仕事を辞めたいという気持ちだった」。愛知県内の病院で看護師として働いていた男性(32)は、2017年の退職時のことをそう振り返る。

その年の異動で重症患者向けの病棟担当になり、精神面での負担が大きくなった。ある日、どうしても出勤する気持ちになれず、そのまま退職。別の職に就いたものの、プレッシャーから再び仕事に行けなくなっ

た。

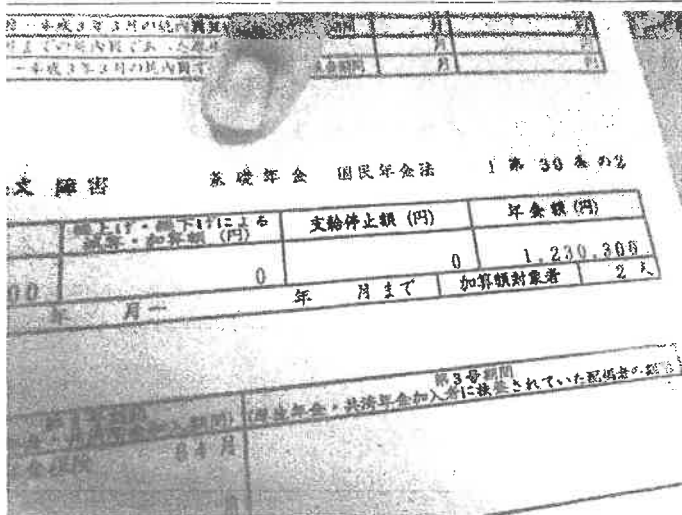
精神科を受診したのは、看護師の仕事をやめてから約1年後。双極性障害(そうつ病)の診断を受け、障害年金を申請した。

男性が勤務していたのは民間病院だったので、厚生年金の加入期間が5年ほどあったが、初診日は退職後

の国民年金加入中。そのため、障害厚生年金は受け取れず、障害基礎年金のみとなった。

2人いる子どもも加算分を含めて受給額は年123万円。だが、もし病院退職前に受診して「厚生」が受け取れていたなら、受給額は年50万円超増えていたとみ

(1面に関係記事)



愛知県の男性が受け取った障害年金の支給決定通知。左下に厚生年金の加入期間として「64月」と表示されているが、支給されるのは障害基礎年金のみになっている＝7月

られる。

子ども2人はまだ幼く、妻のパートの収入もあるが生活は苦しい。「50万円の差は大きい。自分のように損をする人が出ないようにしてほしい」と訴える。

### 「保険」の性格

なぜこんな仕組みになっているのか。公的年金には「保険」の性格があるからだ。保険加入中に起きた事故や病気をカバーするのが保険の原則。ただ病気の場合、いつが起点だったのかははっきりしないことも多いため、初診日で判断する。

そのため、病気になったのが厚生年金加入中だったとしても、たまたま初診日が国民年金の期間なら「厚生」は受け取れないということになる。

だが、精神疾患の場合、職場に知られることを恐れて受診しない人もいる。若

年性認知症やがんなどでも調子が悪くなったため仕事を辞め、その後、医師にかかるというケースがあり得る。

障害年金の申請代行を多く手がける愛知県の白石美佐子社会保険労務士は「そうした例をたくさん見てきた。そのたびに気の毒に感じる。法改正には大賛成だ」と話す。

障害年金制度に詳しい流通経済大学の百瀬優教授によると、スウェーデンでは退職も1年間、ドイツでは2年間まで、日本の「厚生」に近い障害年金の支給対象になる。百瀬教授は「日本の制度は『基礎』と『厚生』の格差が大きく、不利益を被る人が出ないようにすべきだ。厚生年金から抜けた後、何年間までカバーするのかなどが論点になる」と指摘している。



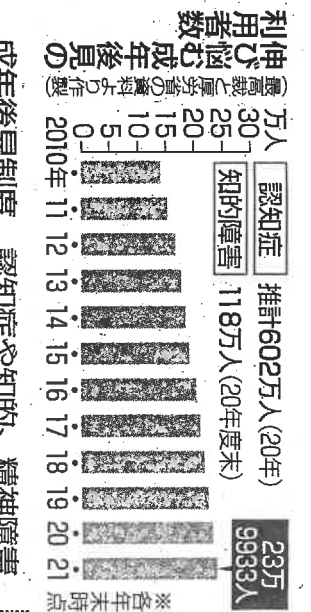
# 成年後見、民法改正へ

## 必要な時だけ利用、交代も

法務省検討

認知症や知的障害で判断能力が十分でない人を受け、成年後見制度について、法務省が民法改正に向けた検討を始めたことが12日、分かった。現在の仕組みで

は、利用を始める原則、途中やめたい後見人を替えることができる。必要に応じて、法務省が民法改正に向けた検討を始めたことが12日、分かった。現在の仕組みで、利用者や後見人に支払う報酬も、いくらかかるかな



成年後見制度 認知症や知的障害や精神障害者や障害者に対する支援の観点から、後見人の役割や役割の明確化などについて、法務省が民法改正に向けた検討を始めたことが12日、分かった。現在の仕組みで、利用者や後見人に支払う報酬も、いくらかかるかな

現在は一貫していた後見人の人だけでは約60万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。

精神障害者や障害者に対する支援の観点から、後見人の役割や役割の明確化などについて、法務省が民法改正に向けた検討を始めたことが12日、分かった。現在の仕組みで、利用者や後見人に支払う報酬も、いくらかかるかな

は21年末時点で約24万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。国内には認知症の患者が約100万人に達している。

## 柔軟な対応が必要

【解説】 不便さが指摘され、銀行などが代替サービス

後見人の報酬額は家庭裁判所が決めているが明確な基準はなく、利用者の財産額などに依り変動する。後見人に選ばれる一部の専門職の場合は月2万4千円程度の例が多く、大し

と自己体を待たせ、法改正を待たせ、根拠を低くして連携してほしい。現状では、例えば親が認知症になると原則、預金を引き出せず、金融機関から成年後見の利用を求められることが多い。使ひ勝手の

有識者研究会は制度改正に向けた報告書を24年までに提出する見通しで、早くも26年度にたいする要望がある。生活や家族の価値観、従来の民間機関で議論した後に、民法改正案を国会に提出する見通しで、早くも26年度にたいする要望がある。

＊本社調査

児童用の入所施設で暮らす成人の知的障害者らが、全国で283人になることが読売新聞の調査で分かった。児童福祉法で成人施設などに移ると定められた18歳を過ぎていることから「過齢児」と呼ばれ、30歳代以上が66人、最高齢は85歳だった。移行先に空きがないため、職業訓練などの支援を受けられないという問題がある。(横浜支局 荒木香苗、中山知香)



入所待ち2年

東海地方に住む50歳の女性の、重い自閉症の娘(23)を地元の児童施設に預けている。娘が14歳から暮らす施設で成人を迎え、退所を求められた。

夫と一緒に成人施設をいくつも回ったが、環境の変化が苦手な娘を託せるころはなかった。ようやく見つけた施設は満杯で、もう2年、入所待ちの状態が続く。女性は「遠方の施設なら、どこにか空きを見つけてくれるのかもしれないが、私たちは毎週末、娘と会っている。遠くに預ける選択はできない」と話す。

# 障害持つ「過齢児」 全国283人

## 児童施設で18歳以上に

◆18歳を超えても児童施設から移行できない状況



国は20年前の2002年に策定した障害者基本計画で、知的障害者らの「地域移行」を目標に掲げた。「障害者は郊外の施設で」という従来の施策を見直し、市街地にグループホーム(GH)の整備を進め、受け入れていくというものだ。

### 「市街地グループホーム推進」

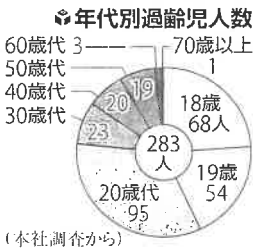
と現実には、なおギャップがある。厚生労働省によると、21年所者は約12万6800人。13年比で約7400人しか減っていない。障害者の割合が最も重い区分「6」に限れば、逆に1万9000人近く増え

逆に入れているのが当たり前という感覚をつくっていくことが大切。国はGHの整備だけでなく、共生意識の醸成を含めた環境づくりにも力を入れてほしい」と訴える。

3度目となる延長(24年3月末まで)を決めた。

# 移行先足りぬまま10年

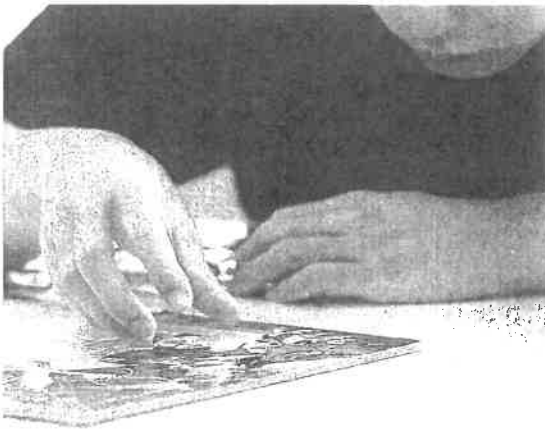
児福祉法は  
解消明記



(本社調査から)

に行く日中、6人は未就学児と公園に行ったり散歩をしたりして過ごす。施設には成人支援の設備も手もなく、職業訓練などはできない。

明星大の吉川かおり教授(社会福祉学)は「成人施設は入所者が高齢化、長寿化して空きが出ない。少数にきめ細かい支援をするグループホーム(GH)は



児童施設で暮らす20歳代の男性。日中は子供たちと一緒にテレビを見たり、パズルをしたりして過ごす(7月、神奈川県秦野市の「弘済学園」)＝古賀正樹撮影

### 3度目の延長

国は2012年、障害者に年齢に応じた支援を提供していくため、改正児童福祉法を施行した改正前は、成人の児童施設での継続入

所について、「支援が行き届かなくなる恐れがあれば認め」としてきた例外規定を撤廃。18歳以上は成人施設やGHに移るよう求めた。

ただ、移行ルールを厳格化した法改正から10年がたち、ここに来て、成人施設の満杯状態が続くなど壁にぶつかっている。厚生労働省は移行期限の延長を繰り返したが、それでも過齢児解消には至らず、今年3月には

過齢児の中で自立するのは、自傷他害など強度行動障害がある人や医療的ケアも欠かせない人だ。GHで受け入れようにも、支援には専門的知識や技術のある人材も必要で、移行先探しがいよいよ困難になっている。厚生労働省の担当者は「今後半年ごとに移行の進捗状況を調べ、各自自治体と連携して対応していく」と話

す。自治体からは、全国の施設の空き状況や、どんな支援が可能なのかが分かる情報共有システムを求める声がかかる。

立命館大の田村和宏教授(社会福祉学)は「まずは施設と自治体が地域ごとに課題を見極め、国はそれぞれの要望に応じ、移行促進のノウハウ提供や支援人材の育成などをバックアップするべきだ」と指摘する。

# 障害者の一人暮らし 実現へ支援策

障害者が共同で暮らす「グループホーム」について、厚生労働省は、将来的に一人暮らしを希望する人が集まって支援を受ける仕組みを創設する。障害者総合支援法を改正し、2024年度にも導入したい考えだが、障害者の一人暮らしを地域で支える環境を整備できかなど、関係者の間では慎重意見も根強い。（村上藍）

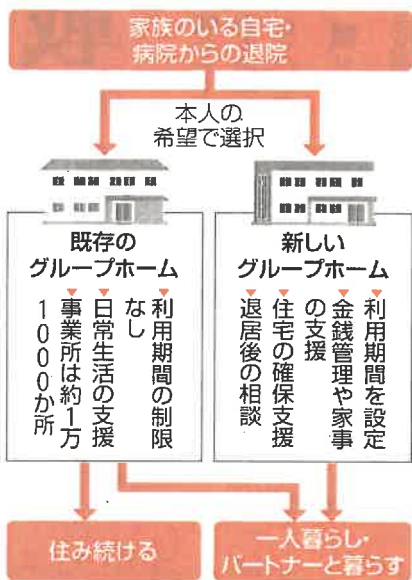
## 「グループホーム」新たな仕組み

「いつかは一人暮らしをしたい」。社会福祉法人「東京都手をつなぐ育成会」が運営する大田区内のグループホームで暮らす赤間春香さん(23)は夢を語る。この施設は障害者の一人暮らしに向けたサポートを実施している。東京都が独自に導入したもので、「通



グループホームで、職員と話す利用者ら(東京都大田区)

### 新しいグループホームのイメージ



過型」と呼ばれている。グループホームは、住宅街にあるアパートなどで、障害者が世話人のサポートを受けながら、共同生活を営む場所だ。利用期間に制限はなく、暮らし続けることを前提にする。一方、通過型は入居期間が設定されている。一人暮らしに向けた支援を受けられる。赤間さんの暮らし施設の場合、1年程度の利用だ。現在は、軽度の知的障害の

ある6人が住む。それぞれが共有スペースで食事をして仕事に行き、個室で生活する。赤間さんは日中、企業で

## 地域の環境整備「不十分」の声

清掃の仕事をしている。部屋掃除や金銭管理が苦手だが、世話人ともやり方を覚え、少しずつできるようになった。

全国で約15万5000人が生活している。厚生労働省の調査では、「将来、一人暮らしをしてみたい、パートナーと暮らしてみたい」という利用者は約4割いたが、希望者に一人暮らしに向けた支援をする施設は約2割にとどまる。

ただ、現状では一人暮らしは難しいため、退去後、まずは利用期間の制限のない滞在型のグループホームに移る予定だ。

このため、国は既存のグループホームで一人暮らしを希望する障害者への支援を強化するとともに、東京都の「通過型」を参考として、新たな仕組みを創設することにした。

実際に、東京都の通過型の施設を経て一人暮らしへ移行した人のケースでも、安定した生活を続けるのは、地域の福祉サービスを利用したとしても容易ではないという。

具体的には、期間を区切って、金銭管理や家事の練習、住宅の契約の助言などの専門職を配置し、一人一人の支援計画をつくる。退去後の相談にも応じる。ただ、希望する全ての人が、一人暮らしが可能なわけではないため、利用者の状況に応じ、利用期間の延長や、既存のグループホームへの移行もできるようにする。

全国精神保健福祉会連合会の岡田久実子理事長は「一人暮らしへの支援は、本人の希望をかなえるため、効率優先の運営や成果主義に陥らないでほしい」と話している。

# 自信で接客の若者 吃音

## 「注文に時間かかるカフェ」全国で開催

滑らかな発音が苦手な「吃音」のある若者が店員を務める1日限定のカフェが、全国各地で開催されている。その名も「注文に時間がかかるカフェ」。吃音への社会の理解を促し、人前で話すことをためらいがちな当事者に自信を付けてもらうことが目的だ。若者たちが夢に向かって確かな一歩を踏み出す場にもなっている。

5日、富山市内の店舗。「たくさんの人と話したいです」「最後までお話を聞いてください」。新型コロナウイルス対策のマスクにそれぞれ「お願い」を書いた若者4人がホールに立った。注文を取る際に言葉に詰まっても、客はせかしたり途中で話をささげたりしないのがルール。吃音の悩みにじっくり耳を傾ける客の姿もあり、店内にはゆったりとした空気が流れた。



接客する金森真凜さん(右)＝富山市

滑らかな発音が苦手な「吃音」のある若者が店員を務める1日限定のカフェが、全国各地で開催されている。その名も「注文に時間がかかるカフェ」。吃音への社会の理解を促し、人前で話すことをためらいがちな当事者に自信を付けてもらうことが目的だ。若者たちが夢に向かって確かな一歩を踏み出す場にもなっている。

約40人が来店。富山市の近藤光子さん(52)は「一人一人に寄り添って理解することが大切だと思った」と話した。カフェは、吃音のある奥村和沙さん(30)＝東京都目黒区Ⅱが企画。自身もホ

語が話せない人も楽しく働いていた。「日本にもこんなカフェをつくりたい」と考え、2017年に帰国後、今回の企画を立ち上げた。自身も吃音者で、九州大病院(福岡市)で診療に当たる菊池良和医師(44)は、

奥村さんは「吃音を抱える若者が本当にやりたいことを諦めずに挑戦できる社会を目指す」と意気込んでいる。

ある一方、周囲の無理解からいじめにつながったり、社交不安障害を併発したりする場合もある。吃音に詳しい九州大病院の菊池良和医師によると、過去には厳しいしつけなどが主因だとする説もあったが、現在では約8割が体質によるとする見方が有力になっている。

社会を目指す上で大きな意味があると評価する。カフェはこれまで東京都2度開催され、地方での出店は富山が初めてだった。奥村さんによると、当事者同士で集まったり悩みを打ち明け合ったりする場合は地方にはあまりないといい、今後三重県や長野県での開催を計画していると明かす。

# 障害者避難課題「87%

## 移動・避難生活に不安

### 西日本豪雨4年

2018年7月の西日本豪雨で甚大な被害が出た広島・岡山・愛媛の知的・発達障害がある人の家族180人以上に共同通信が実施したアンケートで、災害時の避難に課題があると感じる人が87%に上ることとなり分かった。豪雨では両障害がある岡山県の母娘が自宅で死亡し、障害者への避難支援の在り方が改めて問われたが、4年がたつ今も当事者を巡る不安が払拭されていない現状が浮き彫りになった。

(15面に関係記事)

車に積み込んで近くの山に行った人もいた。避難が必要なかった人も切実で、10、20代の息子2人の母は「家に浸水する不安があったが、避難が難

しかった」と答えた。一般

### 広島・岡山・愛媛 家族180人アンケート

アンケートは6月、支援

団体などを通じて実施。豪

雨時、3県に住んでいた知

的障害や発達障害がある10

歳未満、50代の人の家族で

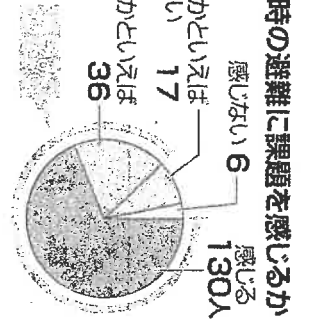
ある20、80代の男女189

人が応じ、選択式で130

人が課題を「感じる」、36

人が「どちらかといえば感

じる」と答えた。



アンケート結果と家族の主な声

#### 主な声

#### 避難生活

多くの場所や慣れない場所、不安でパニックを起こす子どもへの奇声や動きなどによる周囲への迷惑を一番に考えてしまう普段と違うことに対応できず、スムーズに移動できない

#### 避難移動

避難の意味を理解できず、家から出ることや歩くことを嫌がる

#### その他

実際に経験していないので、どのようにすれば良いかわからない

166人の自由記述の理

由を分析すると、主に「避

難生活」と「避難移動」に

関するものに分かれ、51%

が「避難生活」、7%が「移動

」が双方に言及。生活に

ついては「慣れない場所

の集団生活を嫌がる」「周

囲の意味を理解できない」

との声が多く、10代の息

子の母親は「息子は体も

力も(自分を)土回りの避

難は不可能。倒壊しない限

り家で過ごすしかない」と

回答。他にも「何をすれば

良いかわからない」と、漠

然とした不安を抱える人も

いた。

西日本豪雨の際に「避難

が必要だったのは19人で、

全員が当時の避難に課題が

あったと回答。多くは「集団生活でできるか不安」などとして車や実家で過ごし、入院に備えた道具や浮輪を助を必要とする。発達障

害(ASD)、注意欠陥多

動性障害(ADHD)など

がある。①コミュニケーション

②音が苦手③どわわりが強

い④じっとしてられない

⑤音や光に過敏になる⑥な

ど、人によって特徴が異な

# 娘抱き締め、自宅で溺死

## 障害ある人に「誰かが手を」

### 西日本豪雨4年

娘を抱き締めた状態で息絶えていた。2018年7月の西日本豪雨で広範囲が浸水した岡山県倉敷市真備町地区にある自宅で、ともに障害がある三宅遙さん(当時27)と娘の愛ちゃん(5)が溺死した。遙さんの父常男さん(63)は「障害がある人だけで避難するのは難しい。誰かが手を差し伸べる社会になってほしい」と願う。

(一面に關係記事)

遙さんは愛ちゃんを抱き締めた状態で倒れていた。常男さんは「最後まで守ろうとしたんだろうな」とつぶやく。常男さんは後日、避難を呼びかけた男性に遙さんが

「避難所の場所が分からな」と言ったことを知った。遙さんは主な移動手段が自転車、常男さんは「真っ暗な豪雨の中、雑音を嫌う5歳児を連れ、かつ障害が

ある2人だけで避難できるわけがない」と話す。「同じことを繰り返してはいけない」。そんな思いから昨年6月、国が河川管理を怠ったため浸水被害が起きたとして国などに損害賠償を求める訴訟に参加した。「遙のように障害を抱える人は世界中にいる。行政と地域が連携し、災害時に障害者が命を落とさない体制をつくってほしい」と強く訴えた。

遙さんはシングルマザーで軽度の知的障害があり、障害者の妊娠や出産をテーマにテレビ番組で発言するほど精力的だった。愛ちゃんは発達障害のため音に敏感で「引っ込み思案で恥ずかしがり屋。アンパンマンが大好きだった」と常男さんは振り返る。

時間を通り過ぎて別れた。「また来てよ」「じいじ、バイバイ」

翌7日朝、遙さんを長年見守ってきた支援者の男性から電話が。「遙さんの家が水没した」。遙さんに電話したがつながらない。急いで車を走らせるも、一帯が水没して近づけない。わらにもすがる思いで地域の避難所を回ったが見つからなかった。

常男さんは仕事帰りに2人の家に寄るのが日課だった。細かいごみの分別が苦手な遙さんを手伝ったり、愛ちゃんと遊んだり。雨が強く降っていた18年7月6日の夕方、いつも通りの

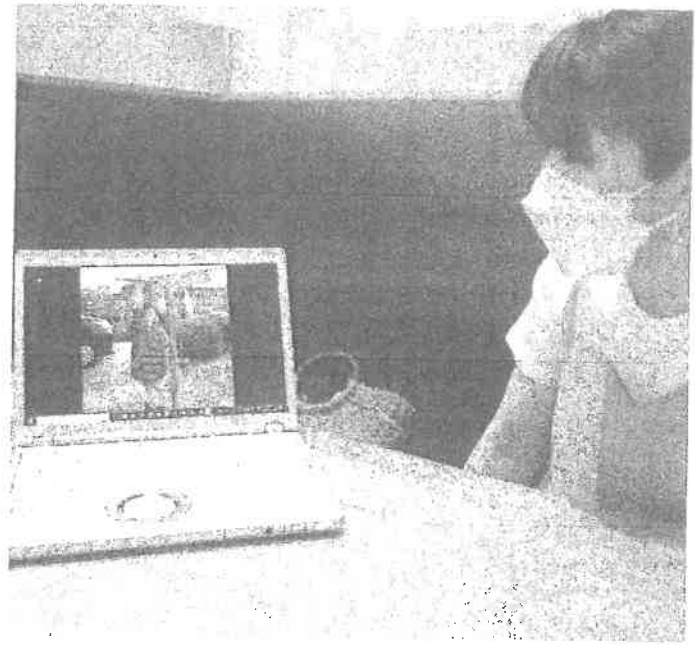
2日後、水が引いた家の中で、家財道具に埋もれた2人が見つかったと連絡を受けた。部屋の隅で、遙さ

+

+

+

# 「周囲に迷惑」と車避難



2018年7月の西日本豪雨の際、知的障害や発達障害がある人の家族の中には「周囲に迷惑がかかる」「集団生活が難しい」と避難所へ入れず、車中で過ごした人もいる。速やかに避難所まで移動できるか不安に感じている人も多い。家族らは「障害がある人たちが安心して過ごせる場所を」と求めている。

豪雨で広範囲が浸水し、50人超が犠牲になった岡山県倉敷市真備町地区。植田光子さん(46)の自宅は2階まで水没し、両障害がある当時6歳の長男(9)と、夫とともに近くの小学校の避難所に身を寄せた。

岡山県倉敷市で取材に応じ、西日本豪雨被災後の長男の写真を見る植田光子さん(6月

い。そのための情報をどこかで集約してほしい」と訴える。

倉敷市の40代女性には、発達障害の一つの自閉症スペクトラム障害がある子ども(8)がいる。学校の避難訓練も怖くて参加できず、

避難所ではパニックを起こす恐れもある。足が不自由で認知症を患う義母とも同居している。

夫は公務員のため、豪雨時は仕事で外出していた。2人を連れて避難所に行ったが「子どもの説得に時間がかかった」と振り返る。「また災害が来た時、2人を速やかに避難させられるのか。避難できなかつたらどうするか。まだ考えておらず、準備もできていない」とこぼした。

## NPO理事長ら起訴 障害児施設監禁

障害のある中学生を拘束し、施設に監禁したなどとして福岡市のNPO法人「さるく」の理事長らが逮捕された事件で、福岡地検は10日、理事長の坂上慎一(57)(福岡市早良区)、福岡県志免町立志免中央小教諭松原宏(37)(福岡県篠栗町)の両容疑者を逮捕監禁罪で福岡地裁に起訴した。

起訴状などによると、両容疑者は昨年10月9日未明、長崎県内で障害のある中学生に対し、「しゃべると殺すぞ」などと脅し、目に粘着テープを貼り付けた。結果バンドで手を縛ったりしたほか、顔を複数回殴るなどした。その後、車で連れ去り、福岡県久留米市の事業所に到着するまで約3時間監禁したとしている。地検は2人の認否を明らかにしていない。

# 中学生縛り連行監禁

## NPO理事長ら逮捕

容疑で福岡県警



疑のジ  
容疑者  
坂上慎一  
坂上 容  
坂上 疑  
坂上 者  
坂上 一  
坂上 慎  
坂上 一  
坂上 容  
坂上 疑  
坂上 者  
坂上 一  
坂上 慎  
坂上 一

障害のある中学生を拘束し、障害児通所施設に監禁したなどとして、福岡県警は20日、施設を運営する福岡市のNPO法人「さくら」理事長・坂上慎一(57)(福岡市早良区西新5)、同県志免町立志免中央小学校の教員・松原宏(37)(福岡県篠栗町中央5)の両容疑者を逮捕監禁と強要の疑いで

逮捕した。県警は同様の行為を約10件把握しており、余罪も慎重に調べる。

発表では、2人は昨年10

月9～11日、長崎県の中学生の男子生徒(14)(当時)宅で、就寝中だった生徒の両手足を結束バンドなどで拘束。「暴れたら殴るぞ」と脅して頭を袋をかぶせて複数回殴り、車で福岡県久留米市の施設などに連行して約67時間にわたって監禁したほか、反省文を書くよう強要した疑い。県警は2

人の認否を明らかにしていない。

県警によると、暴言を吐くなど生徒の言動に悩んだ母親が坂上容疑者に対応を依頼し、この約3日間の報酬として約100万円を支払っていた。

県警は昨年11月、この施設に通う男児に対する暴行容疑で女性職員を逮捕(処分保留で釈放)。施設を捜索した際、生徒らに対する行為が映った動画を押収していた。家族の同意を得て

いたものの、拘束する場合の常識的範囲を超えていると判断し、逮捕した。

松原容疑者は10年以上前、勤務先の児童が坂上容疑者の「療育」を受けていたことをきっかけに、坂上容疑者と知り合った。志免中央小によると、今年1月頃から体調不良を理由に出動していないという。

法人のホームページなどによると、坂上容疑者は、自傷行為や周囲の人を傷つけるといった「行動障害」を持つ子どもの療育が専門だとうたった。

### 拘束は原則禁止

#### 障害者虐待防止法

障害者虐待防止法は身体拘束を原則禁じている。例外的に認められるのは①自身や他人が危険にさらされ

る可能性が著しく高い②ほかの手段がない③拘束が一時的である――の3要件を満たす場合に限られる。

今回の事件について、会津大短期大学の市川和彦教授(障害者福祉論)は、「他人が危険にさらされる可能性が低い就寝中に拘束

するなど3要件を満たさず、保護者の許可があったとしても到底認められる行為ではない」と指摘。「子どもとコミュニケーションを重ね、問題行動が起きる原因を把握し、解決に導くことが大事だ」としている。



# 中学生監禁「療育目的」

## 逮捕の理事長 子供押さえつけも

中学生を拘束し、施設に監禁したなどとして、逮捕された福岡市のNPO法人「さるく」理事長・坂上慎一容疑者(57)(福岡市早良区)が、「障害のある子供とその親を助けるため、療育目的でやった」と供述していることが関係者への取材でわかった。

坂上容疑者は小学校の教員・松原宏容疑者(37)(福岡県篠栗町)と共謀。昨年10月9～11日、長崎県内の中学生の男子生徒(14)(当時)宅で、就寝中の生徒の両手足を結束バンドで拘束

し、施設などに連行して約67時間にわたって監禁したほか、反省文を書くように強要した疑いで、20日に逮捕された。関係者によると、坂上容疑者は行為を認め、「社会生活ができる子供にするためだった」と説明している

という。福岡県警はこれまで、2人の認否について明らかにしていなかった。この事件とは別に、坂上容疑者が「セラピー」として、自傷行為などを繰り返す子供の首を押さえつけたり、部屋に連れていくため羽交い締めにしたたりしていたことも、別の関係者への取材で判明した。保護者や障害児通所施設の関係者から依頼を受け、子供の自宅や施設を訪問し、こうした様子を動画撮影。有料のオンラインセミナーの参加者

に見せていたという。しかし、同法人の施設が今年1月、県警の捜索を受けると、同法人のホームページ上に「生活改善事業の廃止について」と題する文書が掲載された。

坂上容疑者名で、「私が子供たちに行った、刃物を振りかざしたり他者を殴る行為を防ぐための一時的な身体拘束は、犯罪行為であることは明らか」などと記載。「子供やその保護者を救いたいとの一心から実施してきた」と釈明している。

### 別の男児巡り

#### 職員虐待認定

##### 久留米の通所施設

「さるく」が運営する福岡県久留米市の障害児通所施設「くるめさるく」で女性職員による男児への虐待があったと市が認定し、今年3月、児童福祉法に基づく行政指導をしたことが、市への取材でわかった。

県警が昨年11月、この女性職員を利用者の男児に対する暴行容疑で逮捕(処分)した。これを受け、さるく理事長の坂上慎一容疑者は5月17日、市に改善報告書を出し、虐待防止研修や第三者によるチェック体制の構築などに取り組むと述べていた。

# 「意思持ち懸命に生きた」

## 相模原殺傷6年、19人悼む

2016年7月に相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者の45人が殺傷された事件は、26日で発生から6年となった。再建された園内で追悼式が行われ、遺族や職員が亡くなった19人に黙とう。永井清光園長(52)は「19人は自分の意思を持ち、夢に向かって一生懸命生きていた。今も鮮明に覚えている」としのんだ。

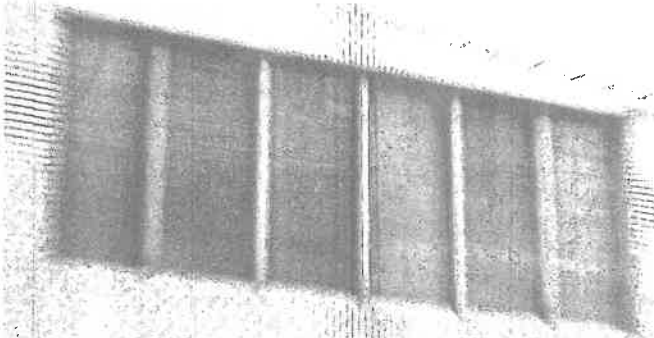
追悼式には5家族6人の遺族や園職員ら計62人が参列した。遺族は閉式後、施設の前にある「鎮魂のモニュメント」で静かに一礼し、献花した。犠牲者を知る人らも訪れ、献花台は花束であふれた。担当した入所者が亡くなった元職員の女性(80)は「自分の子と同じように接していたので、信じられなかった」と悲しみを口にした。

事件で重傷を負った尾野一矢さん(49)の父剛志さん(78)は雨が降りしきる午前中に訪れ、「この雨は犠牲になった19人の涙だ。『また会えたよ』との思いで手を合わせた」と話した。

娘美帆さん(当時19)を亡くした母親は、26日までの取材に「悲しい事件が二度と起らないよう、障害者への差別や偏見をなくす活動をしたい」と語った。永井園長は追悼式で、元職員の植松聖死刑囚(32)を「決して許すことができない」と強調。閉式後の記者会見で「犠牲になった人や遺族に謝罪してほしい」と訴えた。参列した神奈川県黒岩祐治知事は「鎮魂の思いを込め、新しい障害福祉の在り方をつくる決意を新たにしたい」と話した。県は園の居住棟などを再建し、昨年8月に入所者が戻った。現在は50人が暮らす。

### 障害者支援施設事件 1週間 専門家「受け入れ拡充を」

## 日常的虐待か、頼る親も



NPO法人「さるく」が運営する障害者支援施設が入る建物＝27日午後、福岡県久留米市（露光間ズームで撮影）

障害者支援施設に少年を強制的に連行したとして、NPO法人「さるく」（福岡市）の理事長坂上慎一容疑者(57)ら2人が逮捕されたから27日で1週間。福岡県警は「療育」と称し、障害児の手足を縛るなどの虐待が日常的にあったとの見方を強める。一方、重い障害がある子どもに対応する施設は限られているのが実情で、坂上容疑者を頼る保

護者もいる。専門家は「受け入れ施設拡充が必要だ」と訴える。逮捕容疑は昨年10月9日深夜0時過ぎ、小学校教諭松原宏容疑者(37)とともに長崎県時津町の住宅で、14歳だった少年を脅して手足を結束バンドで拘束。福岡県久留米市の施設に連行するなどした疑い。3日間の「合宿」が目的で、少年の暴言などに悩んでいた母親が依頼。報酬として約100万円を支払った。「自分の手法じゃないと子どもが改善せず、親子を救えないと思っていた。関係者によると、逮捕後、坂上容疑者はこう話している。施設のホームページ(HP)では「自傷、他害行為などの『強度行動障害』を3日で改善」とうたい、セミナーでも療育の「実績」を強調。重度の知的障害や自閉症のある子どもを施設で受け入れていた他、家庭訪問もしていた。

県警は子どもの手足を縛ったり、押さえつけたりする様子が写った動画10本ほどを押収。記録のために撮ったもので、保護者やセミナーの参加者に見せるなどしていたという。県警は複数の専門家の意見を聴き、療育の範囲を超えていると判断、逮捕に踏み切った。厚生労働省によると、自傷や他害行為を繰り返す強度行動障害のある人は全国に約8千人いると推計される。専門家の間では、対応には高い専門性が必要で、支援施設側が受け入れを拒むケースもあるとの指摘もある。坂上容疑者を知る福祉施設職員は「(強引なやり方は)法に触れるものだと思っていた。ただ一部の保護者はさすがのように頼っていた」と明かす。息子を久留米の施設に通わせている男性も「学校よりも(坂上容疑者を)信頼している。子どもは改善した。他の保護者も同じ気持ちだろう」。一方、坂上容疑者は逮捕前、HPで自身の行為を「刑事罰に相当する犯罪」とし「深く反省している」とつづけた。日本社会事業大専門職大学院曾根直樹准教授(障害者福祉)は「(逮捕容疑が事実ならば)行われていたのは暴行や暴言といった虐待そのものだ」と指摘。「事件を機に、重度の障害児に対応できる事業所を増やすなど受け入れの裾野を広げるための議論が必要だ」と話した。

# 相模原殺傷6年

## 入所女性、亡き仲間へ折り鶴



「津久井やまゆり園」の祭壇で、折り紙の作品を手にする入所者の奥津ゆかりさん＝13日、相模原市

### 「私たちは精いっぱい生きる」

相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件から26日で6年となった。園で暮らし、亡くなった仲間たちに向けて折り鶴をささげ続ける女性がいる。入所者同士の自治会長を務める奥津ゆかりさん(53)。「天国に行った人も『一生懸命生きて』と生きてくれていると思う。私たちは精いっぱい生きる」。悲しみを抱えながら、安心して暮らせる新しい

施設をつくらうとしている。「危ない。避難して」。2016年7月26日未明。知的障害がある奥津さんは緊迫した職員の様子で目が覚め、何も分からないまま部屋を飛び出した。後に、同じ居住棟の仲間が殺傷されたと知ったが、元職員の植松聖死刑囚(52)と面識はなかった。すぐに同じ社会福祉法人が運営する神奈川県内の施設に移され、約一年半後には再び別

施設に転居した。見知らぬ入所者との暮らしは「大変だった」と話す。

津久井やまゆり園に戻ったのは、居住棟などが再建され、再び受け入れが始まった昨年8月。「なぜこんな目に遭わないといけないのか。本当に悲しい」。事件への憤りは消えない。それでも、職員と会話する中で、やはりほっとできる環境だと感じるようになった。

新たなスタートを切った園は、事件の風化防止を理念に掲げる。大切な役割を果たすのは、奥津さんが10年以上前から大好きで取り組んでいる折り紙だ。

「私の言葉が伝わったかなと思って見つめると、指で丸印をつくってくれた」「ちょっと声が小さめで、かわいい子だった」。奥津さんは同じ居住棟にいて亡くなった女性たちを思い出しながら、こつこつと折り紙を作っている。

「19名の命をこれからも大切にし、一生忘れません」。園内の祭壇はメッセージとともに、色とりどりの折り紙で作った鶴や風船であふれている。月命日には19人の遺影も置かれ、入所者や職員が手を合わせる。

永井清光園長(52)が「前向きにみんなを引っ張ってくれる」と表現する、頼れる存在。奥津さんは昨年11月、利用者でつくる自治会の会長に立候補し、選ばれた。「歩みにくいと言う車いすの人に頑張ってください」と伝えたら、ありがたうと返してくれた」と喜ぶ。利用者の悩みを聞いて職員に伝えるなど、心地よく暮らせる園を目指して活動している。

思い通りにならずふさぎ込むこともあるが、園で散歩したり、ドライブに行ったりと日々楽しい。「みんなとふれ合いながら過ごしていけたらいい」と笑顔を見せた。

# 差別ない社会願って

## やまゆり園事件6年

### 美帆さん母伝え続ける

相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が殺害され、職員2人を含む26人が重軽傷を負った事件から26日で6年となった。建て替えられた園で開かれた追悼式典には、差別のない社会を願って献花する遺族や関係者の姿があった。

(横浜支局 中山知香)



「鎮魂のモニュメント」の前で手を合わせる人たち(26日午後、相模原市緑区)



笑顔を見せる美帆さん(遺族提供)

「一人静かに、娘に話しかけたい」  
19歳で命を奪われた美帆さんの母親(58)はこの日、自宅で娘を思う時間を過ごした。美帆さんが好きだった曲を聞きながら、「本当にかわいかったんです」とほほえむ遺影を見つめていた。

事件が起きた7月が近づくと、毎年、気分が落ち込み、胸が苦しくなる。「も

う生きている意味がない」と思ったこともあるが、2年ほど前から、障害者向けの施設での講演や執筆活動を始めた。「理不尽な事件が二度と起きないように」「差別のない世の中になるように」――。その願いに少しでも近づかためなら、つらい経験語り、伝えていこうと思った。

今年5月、鳥取県の福祉関係者向けに送った寄稿文は、「生きる権利」がテーマだった。

やまゆり園の元職員、植松聖死刑囚(32)は刑事裁判で「生産性のない人間は生きる価値がない」と主張し、事件を正当化した。2020年3月の判決直後には、弁護団による控訴を自ら取り下げ、死刑判決が確定した。にもかかわらず、今年4月に自ら再審請求した。「今になってなぜ」「た

か」。寄稿文では、憤りと戸惑いの交錯する気持ちを、「生きる権利って何なんでしょう」と、ありのままにつづらせた。

弱者を狙ったり、無差別に人を傷つけたりする事件が後を絶たない。昨年10月に京王線の特急列車内で乗客17人を切りつけるなどしたとして起訴された男

は「仕事で失敗し、死にたかった」と供述した。昨年12月に起きた大阪市のクリニック放火殺人事件では26人もの患者らが犠牲となった。美帆さんの母親は「社会での生きづらさが、問題の根底にあるように思えてならない」と話す。

美帆さんは生きていれば25歳。障害者を取り巻く様々な出来事に直面し、悩んでいたかもしれないと思う。自分は人前で話すのも文章を書くのも得意ではないけれど、障害者への理解を広げるために、可能な

限りの活動をしていきたい。「今はそれが、母親として、私にできることだから」

### 再審請求時に 便箋12枚論文

植松死刑囚

収容先の東京拘置所で今月接見した弁護人による



植松聖死刑囚

と、植松死刑囚は再審請求にあたり、12枚の便箋に自ら書いた論文などを横浜地裁に提出した。

再審は確定判決を覆すような「新証拠」が見つかった場合などに請求可能となる。植松死刑囚はこれまで、重度障害者に対して差別的な発言をしてきた。今回も同様の主張とみられる。再審を求めた理由については、「被告人の時と同じように、外部の人と接触できるように」と思った」と説明したという。